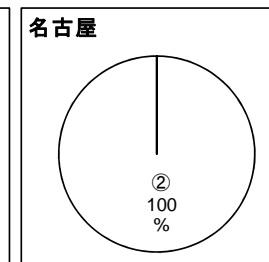
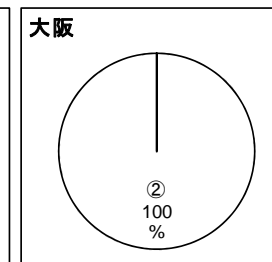
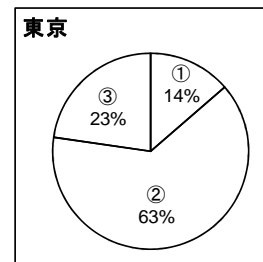


セミナーへのご参加、そしてアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

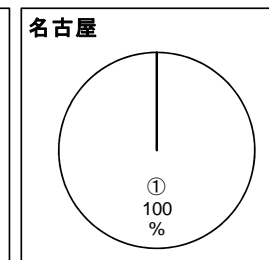
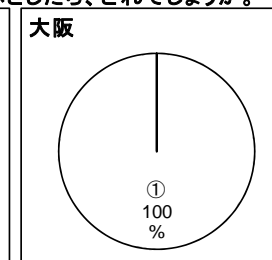
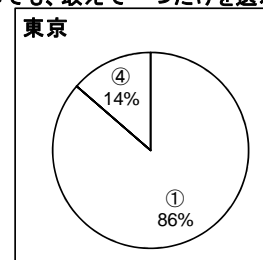
Q1. 確定給付において、規約型と基金型、受益者の利益保護の視点、企業責任の明確化、資産運用の意思決定等の管理運営の利便性など、総合的に勘案したとき、どちらが優れているでしょうか。敢えて一方を選ぶとしたら、どちらでしょうか。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 規約型	3	0	0	3
② 基金型	14	8	10	32
③ 無回答	5	0	0	5
合計	22	8	10	40



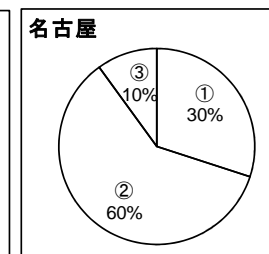
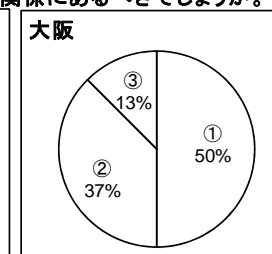
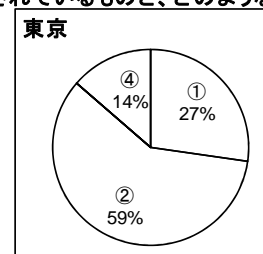
Q2. 企業年金の資産運用の目的として、最も重視すべきことは、どれでしょうか。いずれも重要な論点であるにしても、敢えて一つだけを選ぶとしたら、どれでしょうか。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 受益者の利益のために資産を保全すること	19	8	10	37
② 企業会計上の影響を最小化すること	0	0	0	0
③ 資産運用の付加価値により、年金退職金費用を削減すること	0	0	0	0
④ 無回答	3	0	0	3
合計	22	8	10	40



Q3. 企業年金の資産運用において、前提にされている世界経済の展望や諸仮定は、企業経営において前提にされているものと、どのような関係にあるべきでしょうか。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 基本的に同じであるべき	6	4	3	13
② 全く無関係に独立に設定されるべき	13	3	6	22
③ リスク分散の見地から基本的に反対の方向にあるべき	0	1	1	2
④ 無回答	3	0	0	3
合計	22	8	10	40



Q4. 森信親金融庁長官は、2017年4月7日の日本証券アナリスト協会第8回国際セミナーの基調講演のなかで、年金基金に対してもアセットオーナーとして、「顧客本位の業務運営に関する原則」の対象であることを明確にしましたが、どのようにお考えでしょうか。

	東京	大阪	名古屋	合計
① すぐに受け入れるべきである	12	6	1	19
② 様子を見たい	7	2	9	18
③ 必要がない	0	0	0	0
④ 無回答	3	0	0	3
合計	22	8	10	40

